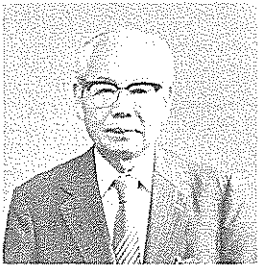


まほろばやし

への期待

国府史跡保存会長

乾 常美

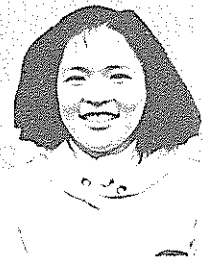


私たちは、ふるさと南国の地に今、新しいまつり「土佐のまほろばまつり」を創作しようとしています。まつりの姿は、これからいろいろな人々の熱意と創造で、練り上げられていくでしょう。そして新しいまつりの日に、新しい「まほろばやし」が、そこかしこから明るく、典雅に、にぎやかに聞こえてくる日を待ちましよう。南国市の豊かさや活性化のために。

南国市連合青年団OB
徳久美佐

縦のつながりの少なくなった今日、芸能の創作は画期的なことだと思っています。

一つの物事に対して街全体が協力してつくり上げ、後世に伝えるために縦の結び付きが深まる。これからの現代には、とても必要なことだと思っています。それをまつり

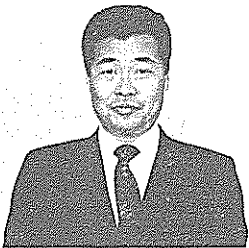


ばやしで奮い起こすなんて今から胸が躍る心境です。だけれども、おはやしを聞く胸がわくわくしてくると思います。

おまつり気分で一気に街を興し、南国市の発展につながることを期待しています。

南国市子ども会連合会長

戸田 隆



南国市にも、やっと市を代表するイベント「まほろばまつり」が、本年度「お囃子」の創作を皮切りに船出に向かっていることを知り、熱い期待を感じています。

この「まほろばまつり」が、新しい南国市の顔となるように、市民参加でつくり、育て、そして未来永劫に継承していくことが、南国市に住む私たちの役目だと思っています。

南国市農協青壮年部長

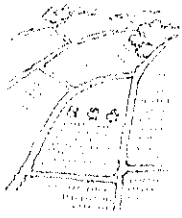
金田浩明



現在、南国市には県内外の人々が立ち寄る観光施設などは個々にあるものの、イベントについてはなにも開催されていない状態で「土佐のまほろばまつり」は大変意義のあることだと思います。

また、このまつりで南国市特有の農産物などもPRし、南国市の発展につなげることもできるのではないのでしょうか。

これを契機に南国市の各施設の充実を図ってもらいたいと思います。



南国市教育長

鈴江広幸



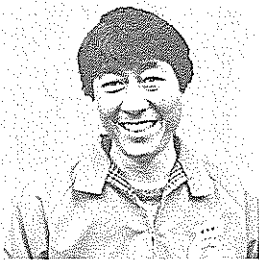
都市化の進行とともに、市民の連帯感や郷土への愛着心が薄らいできているなかで「魅力ある街づくり」の活路を心の豊かさ求める



て、イベントづくりが進められていることは誠に意義深いことです。単なる観光的行事にとどめず、これによって二十一世紀に生きる南国市の象徴を見だし、それを市民ぐるみで盛り上げていくことを期待しています。

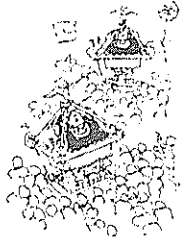
南国市商工会青年部長

溝渕修一



我が南国市は、旧町村単位での地域結束と文化はあるが、市全体としての文化的なものがないと考えていました。

このたび「まほろばやし」の創作の気運が盛り上がっています。市民意識を醸成する核として大変関心を持っています。そして、市民文化運動のシンボルとして根つき、いろんな場面で演じられるような芸能にしていきたいと思っています。



まほろば

大和は国の「まほろば」であり、この地は土佐のまほろば……。『まほろば』とは、すぐれたよいところという意味の古語。
古くは土佐の黎明期、稲作文化が開ける二千年前、すでに土佐人のルーツともいえるべき人々の営みが、古墳時代を経て律令制下、比江の地には国衙が置かれ、土佐の政治、文化の中心地として王朝文化の花が咲き、かの歌人紀貫之が着任したのが九三〇年(延長八年)のことでした。耀京の折につづつた「土佐日記」はすぐれた日記文学としてあまりにも有名。
そして平安から鎌倉へ、律令制から守護制へと変わり、田村が政治の中心地に。転じて戦国の時代、岡豊城を本拠とした長曾我部元親は四国を統一します。
時代を彩る先達の営み、ことに近世に至るまでは、私たちの郷土こそ歴史ドラマの主舞台、まさに「まほろば」だったのです。
更に現代、県の要衝の地として若い人々がこの市を新たに「まほろば」と呼べるように……。



▲紀貫之邸跡

囃子(お囃子)

日本の打楽器本位の演奏。元来は、にぎやかに気分をかきたてる「はやし」という動詞が名詞化したものです。

囃子の主な種類は「能囃子」「歌舞伎囃子」「郷土芸能の囃子」などに分けられ、更に郷土芸能の中に「祭礼囃子」「里神楽囃子」「獅子舞囃子」「馬鹿囃子」などがあります。

楽器は主として太鼓、鉦、笛などを使用し、弦楽器はあまり使用

しません。有名な祭囃子には「祇園囃子」「江戸沖田囃子」などがあります。

高知県下では、傍原町などに神楽が残っていますが、あまり囃子が伝承されている例はありません。最近、各地で「〇〇太鼓」が創作されています。太鼓は非常に勇壮ですが、囃子は優美、典雅、軽快といった印象が強く「まほろば」という言葉にぴったりです。

南国市が二十一世紀の入口に到達したとき、どんな南国市になつていようか、というよりも、そのときの南国市をどうイメージできるか。このことは非常に重要なことです。

立地的にはいい条件にありながら、非観的の条件の多い南国市。しかし、だからこそ雄大なイメージを描き、それをシンボル化した文化イベントをつくる。ひよつとしたら可能ではないか。いや、絶対可能だと思えます。

市役所(☎0211-2111)
産業経済課(内線2211)
社会教育課(内線314)
企画財政課(内線207)